

今回は ADHD を取り上げてみましょう。ADHD は ASD よりもよく知られているかもしれませんが、だからといって、よく理解されているとも限りません。授業中に立ち歩く生徒、片づけられない主婦、衝動的な非行少年、スケジュール管理ができない若手社員…。印象的な例を耳にしますが、彼らが示しているのは障害そのものというより、障害を理解されなかった顛末と言えるかもしれません。

怒られやすい障害

ADHD の特徴は、意識が向く対象が移ろいやすい、思い立ったら行動する、気持ちはすぐ言う、といったことです。たとえば学校ではどうなるでしょう。先生の話聞いていない(意識が逸れるので)、落ち着きがない(すぐ動くので)、感情的になりやすい(感じたらすぐ言うので)…。どれも、しばしば怒られてしまうことですね。

ADHD を抱えた人は多くの場合、いろんな人から何度も怒られてきています。しかし、障害ですから、努力で克服するには限度があります。自分の努力でどうにもならないことで怒られ続けると、どんなにタフな人でも、自信を無くしたり、いじけてしまったりするでしょう。

そんなときには、向こう見ずな行為を大人への反逆として持て囃してくれる非行グループが救いに見えたりします。女の子は無理せずお嫁さんになればいいと言われることもあります。責任感を持って、と見当外れな叱咤激励を受け続けることもあるでしょう。



悪意を想定する前に…

たいていの場合、人は親や先生や上司など、目上の人から褒められたい、認められたいと思っています。最初から悪意を持って積極的に怠けたり、相手を怒らせるようなことをしたりすることはそう多くはありません。

コイツは怠けている、やる気がない、何度言っても直す気がない、というように見えるときには、どうして望んでいるわけでもないだろうに、そうなっているのだろうと想像したいところです。まるで ADHD のように衝動的に叱りつける前に。

それが、たとえ ADHD を抱えていなくても、ADHD という障害に対して私たちができることではないでしょうか。

